

## 刑事手続の流れ



質問：被害にあいました。どんなふう  
に捜査したり、犯人を捕まえたり  
するのですか？

### 犯人が20歳以上の場合

※ 犯人が少年（20歳未満）の場合は、P6～7をご覧ください。

#### 捜査

捜査段階では、罪を犯したと疑われる犯人のことを、被疑者（ひぎしゃ）といいます。被疑者は必ず逮捕される訳ではなく、逮捕せずに捜査をすることが原則とされています。ただし、被疑者が逃亡したり、証拠を隠滅するおそれがあるなどの事情があれば、裁判所から令状の発付を受けるなどして逮捕する場合があります。

逮捕した場合、48時間以内に、被疑者の身柄と捜査状況を記録した書類や証拠を検察官（警察官とは違います）に送ります。

検察官は引き続き被疑者を拘束する必要があると認める場合は、裁判所に請求をします。裁判所が請求を認めると、最長20日間拘束されることとなります（全ての事件で20日間拘束されるものではありません）。

被疑者を逮捕しない場合は、被疑者を呼び出して取調べるなどし、捜査が終了した段階で捜査状況を記録した書類や証拠を検察官に送ります（在宅送致又は任意送致と言われます）。

## 起訴／不起訴

検察官は捜査の結果や証拠物、被疑者や関係者の供述状況などを検討して、被疑者を裁判にかけるか決定します。裁判にかける場合を起訴(きそ)、かけない場合を不起訴(ふきそ)といいます。

犯罪が明白であるときでも必ず起訴しなければならないものではなく、検察官は、被疑者の情状や犯罪の軽重等を考量して起訴・不起訴を決定します。

また、逮捕されたから必ず起訴されるものではなく、一方、身柄不拘束であっても起訴される場合もあります。

## 裁判（公判）

起訴された被疑者を被告人といいます。裁判(公判)が開かれると、事案に応じて被害者が証言したり、証拠が提示されるなどされ、最後に判決が言い渡されます。検察官又は被告人側のどちらか一方でも、判決に不服がある場合は、高等裁判所に訴えること(控訴：こうそ)もあります。裁判にかかる期間(判決までの期間)は、事案によって様々です。

MEMO :

---

---

---

---

---

# 刑事手続の一般的な流れ(20歳以上)

